

いわき市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

令和6年10月時点

※本様式は1-2に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	28	事業名	被災者生活支援事業	事業番号	D-13-1
交付団体	福島県		事業実施主体(直接/間接)	福島県(直接)	
総交付対象事業費	766,934(千円)		全体事業費	766,934(千円)	
事業概要					
<p>災害公営住宅の入居者同士の交流、地域にお住まいの方々との交流活動等を支援するために交流員を配置するほか、交流員の活動を支え、交流イベントの企画、被災者支援に携わる市町村や社会福祉協議会等との連携を担うスーパーバイザー(以下「SV」という。)及び全体の総括者を配置することにより、長期避難者等の生活拠点を核としたコミュニティの維持・形成を図る。</p> <p>【概要】</p> <p>1 配置人数：令和3年度 交流員8人、SV 1人 計9人 令和4年度 交流員8人、SV 1人 計9人 令和5年度 交流員8人、SV 1人 計9人 令和6年度 交流員8人、SV 1人 計9人 令和7年度 交流員7人、SV 1人 計8人</p> <p>2 配置期間：「平成26年11月～」</p> <p>3 活動拠点：いわき市内</p> <p>4 対象エリア(災害公営住宅団地数)：13地区 いわき市(12地区)、広野町(1地区)</p> <p>5 実施方法：民間団体等に委託</p> <p>6 業務内容： ・自治活動運営サポート業務：自治組織の設立(未設立の場合のみ)、入居者主体で維持管理できる体制づくりのサポート、入居者台帳等の作成、防災意識醸成の支援業務、町内会等地域での横のつながり醸成の支援業務、社会福祉協議会等との連携強化 ・情報提供・相談対応業務：コミュニティ活動、孤独死防止に関する情報提供、団地からの相談の対応 ・交流活動支援業務：入居者同士及び地域住民との交流の場の創出、交流イベントの企画・運営・案内</p> <p>※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください 『福島県復興計画(第2次)』</p> <p>取組名： 取組内容：</p> <p>【事業間流用による経費の変更】 (令和6年1月10日) 事業費に不足が生じたため、D-13-1 被災者生活支援事業(福島市)より、71,202千円を流用。これにより、交付対象事業費は733,840千円に増額。 (令和6年10月4日) 事業費に不足が生じたため、D-13-1 被災者生活支援事業(南相馬市)より、33,094千円を流用。これにより、交付対象事業費は766,934千円に増額。</p>					

居住制限者の避難の状況との関係

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、双葉郡等の多くの住民が長期にわたる避難を余儀なくされ、県内はもとより、県外に分散して避難生活を送っており、避難者同士の交流が希薄になるなど、コミュニティの維持・形成が重要な課題となっている。

このような中で、避難者が避難生活を安心して過ごしていただくためには、災害公営住宅の整備を中心とした生活拠点における避難者のコミュニティの確保が必要である。

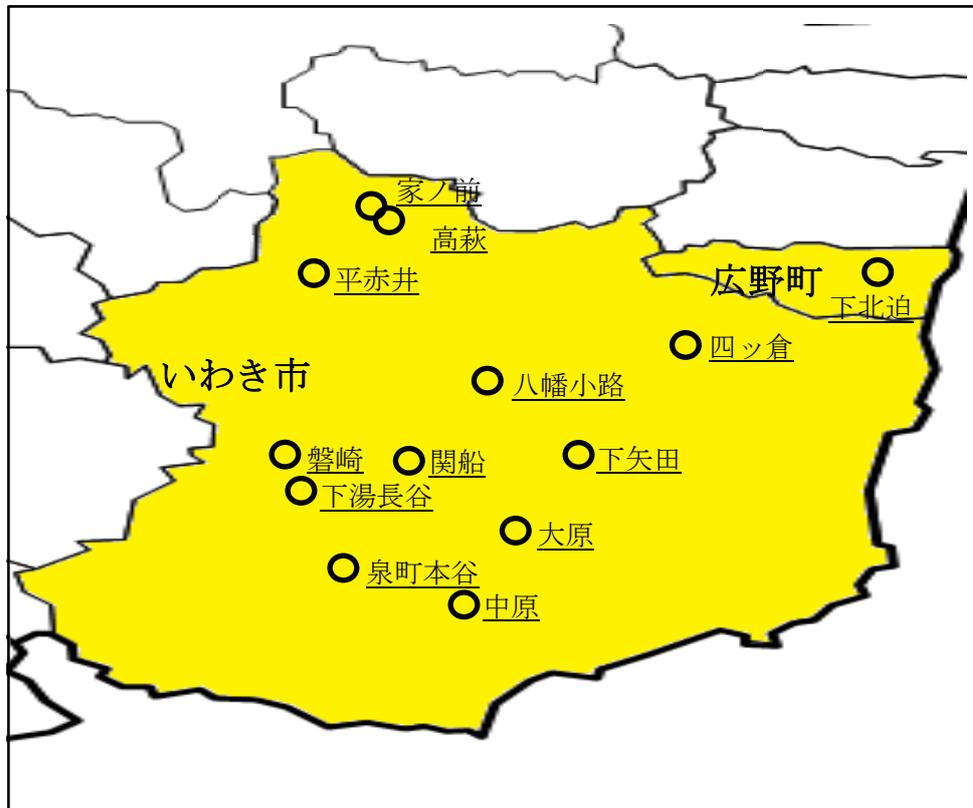
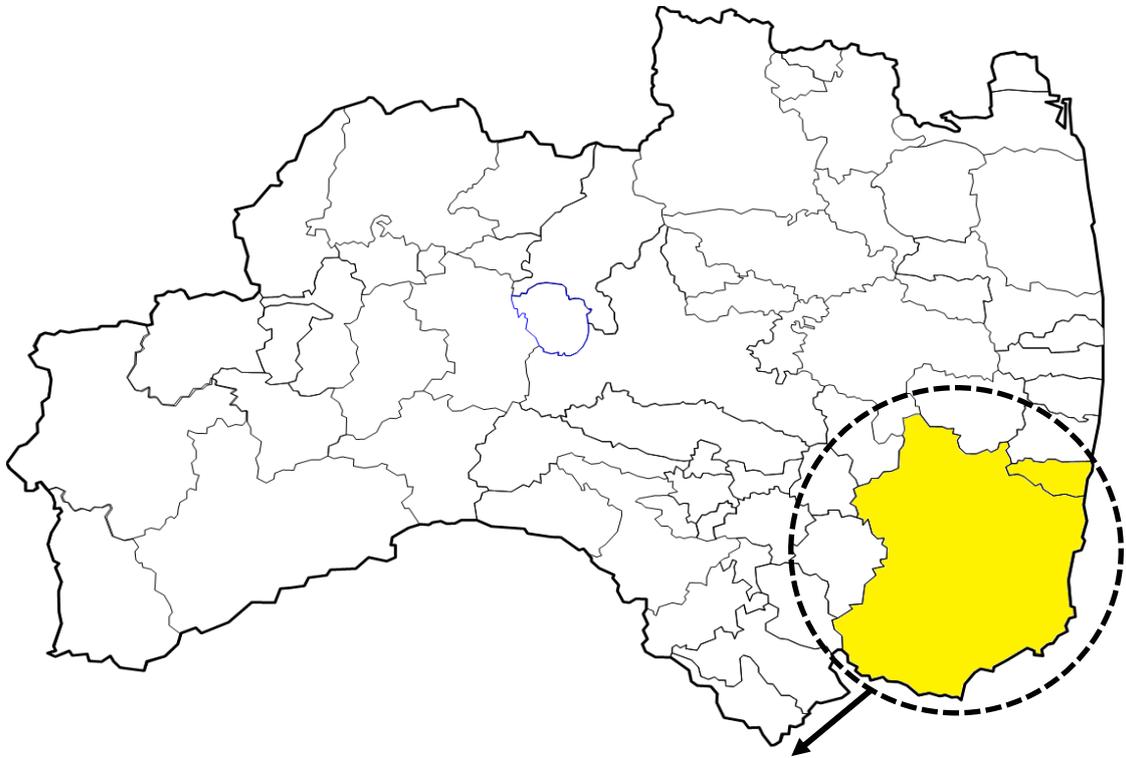
そのため、災害公営住宅入居者同士の交流、地域にお住まいの方々とのコミュニティ活動を支援する交流員を生活拠点に配置し、交流活動が盛んになるよう取り組んでいく。

※避難者支援事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	

(別紙)

※生活拠点形成事業等を実施する場所がわかる資料を添付してください。



※○は令和7年度における被災者生活支援事業の実施箇所（災害公営住宅）

(様式 1-3)

いわき市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

令和 6 年 10 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	43	事業名	災害公営住宅家賃低廉化事業 (いわき市内)	事業番号	A-2-1
交付団体	福島県		事業実施主体 (直接/間接)	福島県 (直接)	
総交付対象事業費	15,604,861 (千円)		全体事業費	15,604,861 (千円)	

事業概要

原子力災害により避難を余儀なくされている避難者の居住の安定を確保するため、災害公営住宅入居者への家賃を低廉化する。

【対象】

- ・ 下神白団地 (小名浜、永崎)
- ・ 湯長谷団地 (常磐)
- ・ 八幡小路団地 (平八幡)
- ・ 関船団地 (常磐関船町)
- ・ 家ノ前団地 (小川)
- ・ 宮沢団地 (内郷宮町)
- ・ 高萩団地 (小川町 2、小川町 3)
- ・ 大原団地 (小名浜大原)
- ・ 中原団地 (小名浜中原)
- ・ 平赤井 (平赤井)
- ・ 下矢田 (鹿島町)
- ・ 四ツ倉 (四倉 1、四倉 2)
- ・ 北好間 (北好間中川原)
- ・ 磐崎 (下湯長谷)
- ・ 泉本谷 (泉町本谷)
- ・ 勿来酒井 (勿来酒井 1、勿来酒井 2)

※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください

居住制限者の避難の状況との関係

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、避難指示区域が設定され、役場機能を県内外の地域に移転せざるを得なくなるなど、原子力災害は本県の基盤を根底から揺るがすものとなっている。

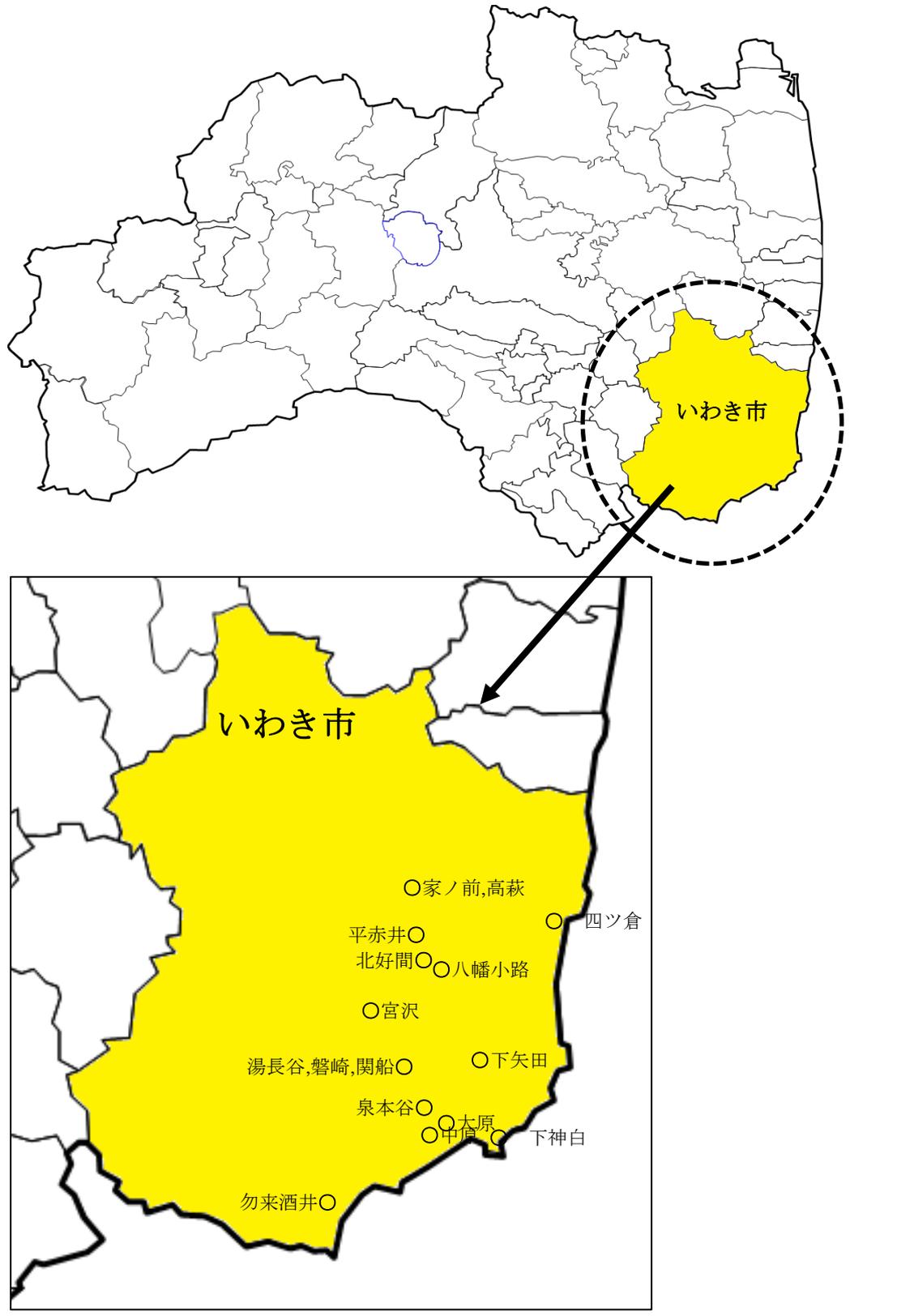
災害公営住宅は、居住制限者にとってのコミュニティの形成・維持の拠点となるものであり、応急仮設住宅等からの移行を進め、居住の安定の確保を図るものである。

※避難者支援事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

(別紙)

※生活拠点形成事業等を実施する場所がわかる図面を添付してください。



(様式 1-3)

いわき市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

令和 6 年 10 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	44	事業名	東日本大震災特別家賃低減事業 (いわき市内)	事業番号	A-3-1
交付団体	福島県		事業実施主体 (直接/間接)	福島県 (直接)	
総交付対象事業費	1,329,801 (千円)		全体事業費	1,329,801 (千円)	

事業概要

原子力災害により避難を余儀なくされている避難者の居住の安定を確保するため、応急仮設住宅等に居住する特に所得の低い避難者が円滑に災害公営住宅に移行し速やかに住宅再建できるよう、災害公営住宅の家賃を一定期間、入居者が無理なく負担しうる水準まで低減する。

【対象】

- ・ 下神白団地 (小名浜、永崎)
- ・ 湯長谷団地 (常磐)
- ・ 八幡小路団地 (平八幡)
- ・ 関船団地 (常磐関船町)
- ・ 家ノ前団地 (小川)
- ・ 宮沢団地 (内郷宮町)
- ・ 高萩団地 (小川町 2、小川町 3)
- ・ 大原団地 (小名浜大原)
- ・ 中原団地 (小名浜中原)
- ・ 平赤井 (平赤井)
- ・ 下矢田 (鹿島町)
- ・ 四ツ倉 (四倉 1、四倉 2)
- ・ 北好間 (北好間中川原)
- ・ 磐崎 (下湯長谷)
- ・ 泉本谷 (泉町本谷)
- ・ 勿来酒井 (勿来酒井 1、勿来酒井 2)

※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください

居住制限者の避難の状況との関係

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、避難指示区域が設定され、役場機能を県内外の地域に移転せざるを得なくなるなど、原子力災害は本県の基盤を根底から揺るがすものとなっている。

災害公営住宅は、居住制限者にとってのコミュニティの形成・維持の拠点となるものであり、円滑に恒久住宅に移行し、速やかに生活再建ができるよう特に所得の低い入居者の家賃を低減する必要がある。

※避難者支援事業等である場合には以下の欄を記載。

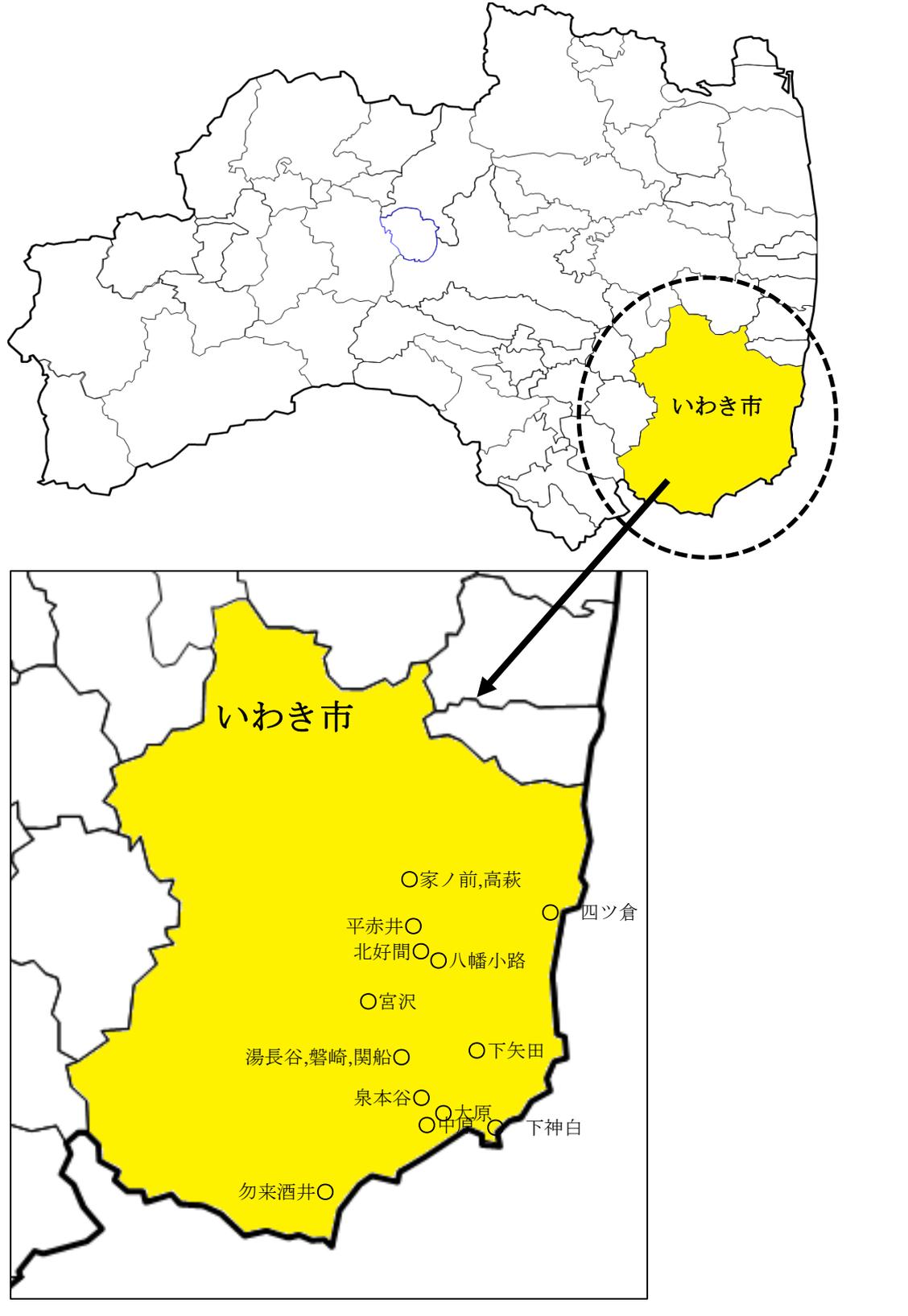
関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	

基幹事業との関連性

--

(別紙)

※生活拠点形成事業等を実施する場所がわかる図面を添付してください。



(様式 1-3)

いわき市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

令和 6 年 10 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	14	事業名	災害公営住宅整備事業(泉町本谷)	事業番号	A-1-8
交付団体	福島県		事業実施主体(直接/間接)	福島県(直接)	
総交付対象事業費	14,305,197(千円)		全体事業費	11,961,682(千円)	
事業概要					
原子力災害により避難を余儀なくされている避難者の居住の安定を確保するため、早期に災害公営住宅を整備する。					
【整備概要】					
整備戸数：196戸					
整備箇所：いわき市泉町本谷字竹花地内					
整備手法：建設					
建設する建物の構造：RC造3階建て					
『福島県復興計画(第2次)』					
取組名：生活再建支援プロジェクト【復興公営住宅整備】					
取組内容：避難町村の意向を十分に確認しながら、県営住宅を含む様々な整備方法について実施中					
(事業間流用による経費の変更)(平成26年11月25日、平成27年2月24日)					
市場労務単価の高騰や資材高騰による工事費の増額に対応するため、A-1-7 災害公営住宅整備事業(内郷宮町)へ560,761千円(国費490,665千円)を流用(平成26年11月25日)、及びA-1-11 災害公営住宅整備事業(小名浜大原)へ138,704千円(国費121,366千円)を流用(平成27年2月24日)。					
(事業間流用による経費の変更)(平成27年7月31日)					
整備戸数見直しにより▲46戸となったため、A-1-6 災害公営住宅整備事業(北好間中川原)へ728,196千円(国費：637,171千円)、A-1-18 災害公営住宅整備事業(鹿島町)へ586,360千円(国費：513,065千円)、A-1-21 災害公営住宅整備事業(小名浜中原)へ68,000千円(国費：59,500千円)を流用。これにより、交付対象事業費は12,630,765千円(国費11,051,918千円)に減額。					
(事業内容の確定に伴う基幹事業から効果促進事業への見直し)(平成30年10月11日)					
事業内容の確定に伴い、移管道路及び移管水路(付替部分)を効果促進事業で実施することとなったため、407,589千円(国費：356,640千円)を減額。これにより、交付対象事業費は12,223,176千円(国費：10,695,278千円)に減額。					
事業内容		事業費(千円)			
道路部局に移管された道路		407,589			
他部局に移管された水路(付替部分)					
(事業間流用による経費の変更)(令和5年10月11日)					
事業費に残額が生じたため、A-1-2-2 福島県復興公営住宅入居相談事業へ28,386千円(国費：24,838千円)を流用。これにより、交付対象事業費は12,194,790千円(国費：10,670,440千円)に減額					

(事業間流用による経費の変更) (令和6年10月4日)

事業費に残額が生じたため、A-1-13-1 県営住宅管理システム改修事業へ 228,572 千円 (国費 : 200,000 千円) を流用。これにより、交付対象事業費は 11,966,218 千円 (国費 : 10,470,440 千円) に減額

(事業間流用による経費の変更) (令和6年10月4日)

事業費に残額が生じたため、A-1-2-2 福島県復興公営住宅入居相談事業へ 4,536 千円 (国費 : 3,969 千円) を流用。これにより、交付対象事業費は 11,961,682 千円 (国費 : 10,466,471 千円) に減額

居住制限者の避難の状況との関係

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、11市町村に避難指示区域が設定され、9町村 (現在は7町村) が役場機能を県内外の地域に移転せざるを得なくなるなど、原子力災害は本県の基盤を根底から揺るがすものとなっている。

災害公営住宅は、避難者にとってのコミュニティの形成・維持の拠点となるものであり、早期に整備することが必要である。

※避難者支援事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業

事業番号	
事業名	
交付団体	

基幹事業との関連性

--